

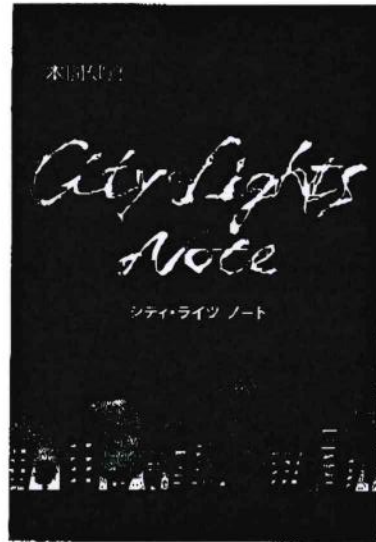
シティライツノート 本間健彦 著

街から舎

新刊のご案内
3月中旬刊行

City Lights Note

観察する編集者、
雑文のすすめ



- 1# わたしが出会った〈人間屋の話〉続編**
- ◆われらの時代の〈雑文家〉草森紳一の本を流もう
 - ◆在野の哲学者・内山節の思想とライフスタイル
 - ◆函館の街を魅了させた作家佐藤泰志の復活ムーブメント
 - ◆マイナーポエット高木麗のローアングルな詩の魅力
 - ◆DJを生業としてきた詩人・清水智男の軽快なフットワーク
 - ◆映画タイトルデザインを飛翔させた赤松陽構造の活動屋魂
 - ◆抗日遊撃戦を闘った斎藤龍風という男の足跡

- 2# いい本・いい映画に出会った時のノート**
- ◆福島の老歌人・佐藤祐禎さんとキリギスの灯りやさん
 - ◆北沢夏音『Get back, SUBJ』を読み再会した小島素治
 - ◆牧瀬西詩集『うみにかえりたい』
 - ◆なかにし礼詩集『平和の中し子たちへ』
 - ◆中山千夏『主人公はきみだ——ライツのランプをともしよう』
 - ◆写真家・渡辺隆が炙りだした『1968 新宿』
 - ◆ドキュメンタリーの地平を拓いた『三風塚に生きる』
 - ◆《笑いの哲人》マルセ太郎を悼む
 - ◆「君こそは友」という仲ではなかったけれど……。
 - ◆黒田オサムを大化けさせたドンちゃんの特眼
 - ◆家庭の音楽に背を向けた最後の文士
 - ◆《山谷のキリスト者》が記録した『岡林信康黙示録』

- 3# ぼくは埋め草や雑文を書いて歌ってきた**
- ◆歴史家・色川大吉の八ヶ岳「森の家」訪問
 - ◆山口百恵の「横須賀ストーリー」
 - ◆海軍機関学校教官時代の芥川龍之介の憂鬱
 - ◆映画『故郷』の舞台となった瀬戸内海倉橋島
 - ◆夜明けのスキヤットが流れていた60年代末新宿
 - ◆高層ビルの谷間で聴こえてきた鳥の声
 - ◆イタリア版「傘が無い」
 - ◆高田豊と石川三四郎
 - ◆われに五月を!
 - ◆群馬県甘楽町と東京都北区の有機的関係
 - ◆有機農業の本づくりのすすめ
 - ◆生涯現役のミニコミ編集者を目指す
 - ◆お寺もデンデケデケデケ
 - ◆無知を恥じ、恩野清志郎に拍手!
 - ◆わが草莽のファミリー・ストーリー

本書は、長年小さな雑誌の編集者として黙布働きをして来た著者が、出会った人・本・映画などについて綴ったエッセイ・コラム・論考集。河島英五の『時代おくれ』という歌に、「人の心をつづける／好きな誰かを思いつづける 時代おくれの男になりたい。」そんなフレーズがありましたけれど、そんな気分で書かれたエッセイ集です。

著者プロフィール

ぼんま・たけひこ 1938年旧満州(現・中国東北部)遼陽生まれ。夕刊紙『内外タイムス』社会部記者、『話の特集』編集者を経て、1969~1973年までタウン誌『新宿プレイマップ』編集長。1992年10月、市民が創るタウンジャーナル『街から』を創刊、編集・発行人として隔月刊で26年間・157号(2019年2月終刊)まで刊行。著書『街頭革命』(サンポウブックス)、『街を創る夢商人』(三一書房)、『戦争の選し子ララバイ』(三一書房)、『日本食肉文化史』(伊藤記念財団)、『高円寺修子伝説』(第三書館)、『人間屋の話』(街から舎)、『イチョウ精子発見の検証』(神泉社)、『高田豊と父・豊の「生活の柄」』(社会評論社)、『60年代新宿アナザー・ストーリー』(社会評論社)など。

書店でのご注文は **株式会社 JRC** 東京都千代田区神田神保町1丁目34番地

FAX 03-3294-2177 TEL 03-5283-2230



注文書	貴店名・帳合印	冊数	書名
	申込日 月 日	冊	<p style="text-align: center; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">シティ・ライツ ノート</p> <p>本間健彦 著 カバー・デザイン 赤松陽構造 装幀 松本孝一 定価 2,000円+税 四六判/320頁/並製 ISBN 978-4-939139-28-4</p>